

令和6年度（2024年度）熊本県立芦北高等学校 修了式

校長あいさつ

令和7年（2025年）3月21日（金）草野 貴光

皆さん、おはようございます。

本年度の締めくくりの修了式を迎えました。1年間を振り返る日でもあり、明日以降にしっかりとつなげる日でもあります。反省や課題ばかりを大きくし過ぎて、良かったこと、頑張ったことを打ち消さないようにしましょう。それぞれに自分を認め、誇りにする日にして欲しいと願っています。

卒業式の式辞で話したことの一部を振り返ってみます。

昨年度の芦高祭に来ていただいたコロッケさんが「あおいくま」という話をされました。「あせるな、おこるな、いばるな、くさるな、まけるな」の頭文字を取って「あおいくま」という処世訓です。自分たちの生活やその時々を重ね合わせるとその時どうすれば良いかという対応の仕方を教えてくれるものです。コロッケさんは、家の台所の柱に紙に書いてお母さんが貼られていて、何かある度に思い起こしていたと話されました。

「結果を出そうと焦ってしまいます、ちょっとした出来事に怒ってしまいます、自分はできると威張ってしまいます、気に食わないと腐ってしまいます、自分の弱い心に負けてしまいます」このような自分は嫌いですよ。どういう自分でいたいのか純粋に思うことが大切です。

そして、人が行動するためのエネルギーとなるのが食事とともに「夢」や「希望」、「情熱」などです。夢を抱き、それを実現しようと考えて行動する時の人の持つエネルギーは凄まじいものがあります。どんな夢を抱くのかで必要とするエネルギーも変わってきます。元気いっぱい、やる気に満ちている、楽しい、熱量に溢れた日々を大切にしてもらいたい。学校から社会に出ると理不尽なことや耐えなければならぬことが沢山あるのが事実です。だからこそ、人は夢を持つことが大切だと考えます。夢追い人であることが人生を楽しむ鍵かもしれません。

1・2年生の皆さんも心に止めておいてください。

卒業生の姿は1年後、2年後の皆さんの姿です。爽やかに前向きに卒業する人がいます。一方で、在学中も心配を抱え卒業することに不安を持つ人、自分の居場所を探す人がいます。卒業するのは緊張感を抱くことでもあります。これから何が起こるか心配するのは当然のことです。

卒業生の進路について皆さん知っていますか。本校では初めてとなる進路を実現した人もいます。ひた向きに自分の可能性を信じて、コツコツと自主学習に取り組んだ

成果です。また、高校で学んだことをベースにさらに深めたいと考えて挑戦していく人もいます。自分の得意なことや長所をとことん追求することができるのは若い時の特権です。自分の可能性を自分自身が信じることは大切なことです。自分が自分の道を照らす光になること。まずは足元からしっかりと照らし、段々とのその先を照らしていけるようにしたいものです。

自分の機嫌は自分で取らなければなりません。人に嫌なことを言ったり、してしまうと自分の機嫌も損ね、自分を傷つけてしまいます。だからこそ、何か気分を良くする方法を知っておくことも大切です。例えば、一日に一回は遠くの風景を見る。遠くを見ると気持ちが良くなります。視線をあげることができます。人に頼らない方法を見つけてください。

それでは、来年度もワクワクする高校生活にしていきましょう。